

—昭和58年度支部総会報告(2)—

(総会開催順)

東 北 支 部

開催日 昭和58年 5月17日
場 所 東北電力幹
議 事

1. 昭和57年度事業報告

(1) 会 議

a. 総 会

57年6月8日(火)14時より東北電力幹情報システム室会議室において開催し、下記議案について審議し、承認された。

- (a) 昭和56年度事業報告ならびに決算報告
- (b) 昭和57年度事業計画案ならびに予算案
- (c) その他

b. 運営委員会

57年6月8日(火)13時30分より開催し、総会提出議案について審議した。

c. 幹事会

57年5月18日(火)

(2) 講演会

57年6月8日(火)総会終了後同会場において開催した。

講 師 東北大学教授 御園生善尚

演 題 「アメリカ雑感」

(3) 研究会

延回数	期日	時間	場所	講 師	テ ー マ	参加人員
第30回	7/5 (月)	16:30 ~ 18:00	仙台市 東北電 力	東北大学 高橋幸雄氏	プログラムの 信頼性につい て	18名
第31回	11/1 (月)	17:00 ~ 19:00	同上	東北大学 武藤滋夫氏	投票制度にお けるパワー分 析ゲーム理論 的アプローチ	15名
第32回	12/8 (水)	16:00 ~ 17:30	同上	電々公社 東北電気通 信局 松本清一氏	これからの電 気通信システ ム (INS:高 度通信システ ム)	40名

(4) 懇親会

57年6月8日(火) 総会終了後開催 参加17名

(5) 親睦行事

58年1月29日(土) 東北電力女川原子力発電所等見学会を実施した。(参加29名)

(6) 会員の状況

会員76名, 賛助会員5社 (58.3.1 現在)

(東北電力, 東北電気通信局, 東北コンピュータ・サービス, 通研電気工業, 東北文理学園)

2. 昭和57年度決算報告

1. 貸借対照表

昭和58年2月28日現在

貸 方		借 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
預 貯 金	44,333	前期繰越金	31,889
		当期運営残高	12,444
合 計	44,333	合 計	44,333

2. 収支計算書

昭和57年3月1日~昭和58年2月28日

科 目	予 算	決 算	備 考
(収入の部)			
本部交付金	228,000	228,000	
利 息	1,111	1,174	
(1) 合 計	229,111	229,174	
(支出の部)			
会 議 費	100,000	80,000	総会, 運営委員会, 幹事会他
講 演 会 費	40,000	5,000	講演会
研 究 会 費	60,000	82,500	OR研究会(3回)
印 刷 費	5,000	4,260	総会資料, 総会
通 信 費	20,000	23,720	議事録
交 通 費	20,000	20,000	はがき, 切手代
事 務 費	5,000	1,250	支部長会議, 交
予 備 費	11,000	0	通費
			封筒, 事務用品
(2) 合 計	261,000	216,730	

(3) 当期運営残高	△31,889	12,444	(1)-(2)
(4) 前期繰越金	31,889	31,889	
(5) 次期繰越金	0	44,333	(3)+(4)

3. 昭和58年度事業計画

- (1) 会議
 a. 総会 1回開催
 b. 運営委員会 "
- (2) 講演会 2回程度開催 (企業、団体等との共催を含む)
- (3) 研究会 5回 " (研究成果発表、素材提供および自由討議等による研究)
- (4) OR普及活動 大学、企業、団体など各職場の実情にあった普及活動を積極的に行なう
- (5) 会員増強 上記活動、その他を通じて、OR学会への入会勧誘を行なう。
- (6) 親睦行事 会員の親睦を図るための行事を1回程度行なう。

4. 昭和58年度予算

科目	予算	前年度予算	増減	備考
(収入)				
前期繰越金	44,333	31,889	12,444	
本部交付金	285,000	228,000	57,000	
利息	667	1,111	△ 444	
合計	330,000	261,000	69,000	
(支出)				
会議費	100,000	100,000		総会、運営委員会、幹事会
講演会費	40,000	40,000		講師謝礼、旅費
研究会費	100,000	60,000		講師謝礼等
印刷費	5,000	5,000		総会資料他
通信費	25,000	20,000		ハガキ、切手代
交通費	50,000	20,000		支部長会議旅費他
事務費	5,000	5,000		事務用品、消耗品他
予備費	5,000	11,000		
合計	330,000	261,000		

5. 昭和58、59年度東北支部役員

支部長 遠藤市彌(東北電力)
 副支部長 御園生善尚(東北大)、松本清一(東北電通局)
 運営委員 和田秀三(東北大)、竹内 清(東北大)、木村

正行(東北大)、手島恒男(東北大)、鈴木義也(東北大)、田中謙輔(新潟大)、小川 久(山形大)、富田耕造(河北新報社)、椎名洋吉(東北電通局)、吉越治雄(東北地建)、若生豊多(通研電気)、江川忠信(東北コンピュータ・サービス)、八島章一(東北電力)

監事 高橋幸雄(東北大)、荻野正浩(東北電通局)
 幹事 後藤義雄(河北新報社)、金内 剛(東北地建)、渡利千波(山形大)、関田康慶(東北大)、武藤滋夫(東北大)、岩田恒一(東北大)、安藤二郎(東北工大)、谷 勝英(東北福祉大)、尾崎哲夫(日本IBM)、千葉雅保(東北文理学園)、五十嵐 豊(東北電力)、田中 勉(東北電力)、小林義明(東北電力)

本部評議員(任期)(57、58年度)

竹内 清(東北大)、高橋幸雄(東北大)、八島章一(東北電力)

北海道支部

開催日 昭和58年6月24日

場所 北二条クラブ

1. 昭和57年度事業報告

1. 研究会
 次の2件を実施した
 A. 欧米におけるORの最近の動向について
 講師 小樽商科大学 若林信夫
 B. 道央地区における総原価最小化線形計画モデル
 講師 共和コンクリート工業(株) 鍋島利彦

2. 講演会
 下記のように実施した。
 ○演 題 著者推定問題に関するOR解析
 ○講 師 統計数理研究所第1研究部第3研究室 室長 村上征勝

3. 講演会の共催
 次の2件を実施した。
 A. 第三の波の時代—情報化社会とその未来—
 講師 米国海軍省科学院

ジョージ・E・リンダムード

- B. エネルギー経済計画のための動的均衡モデル
 講師 米国スタンフォード大学OR学科教授
 George B. Dantzig

2. 昭和57年度収支決算書

貸借対照表 昭和58年2月28日現在

科目	金額	科目	金額
現金	195,712	前期繰越金	395,075
預金	270,259	当期運営残高	70,896
合計	465,971	合計	465,971

収支決算書

昭和57年3月1日～昭和58年2月28日

科目	予算	実算	備考
収入の部			
本部交付金	242,000	242,000	
参加費	20,000	16,500	支部総会参加費
受取利息	0	5,009	
合計	262,000	263,509	
支出の部			
会議費	60,000	43,343	支部総会経費
講演会費	70,000	76,220	謝礼・懇親会費用
研究会費	70,000	14,990	講師と懇談会費用
通信費	30,000	26,080	
交通費	10,000	0	
事務費	10,000	1,980	
予備費	30,000	30,000	講演会共催負担分
合計	280,000	192,613	
当期運営残高		70,896	
前期繰越金		395,075	
次期繰越金		465,971	

3. 昭和58年度事業計画

- 研究会 今年度1～2回実施する。
内容については別途検討する。
- 講演会 今年度1回実施する。
演題・講演者については別途検討し決定する。
- 普及活動 適宜実施する。
- 翌年度実施予定の春季研究発表会全国大会への積極的協力
別途 実行委員会を設け、全国大会への準備をとりすすめるが、この全面的支援をする。

4. 昭和58年度収支予算

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	465,971	会議費	60,000
本部交付金	223,000	講演会費	70,000
参加費	15,000	研究会費	50,000
		通信費	30,000
		交通費	10,000
		事務費	30,000
		予備費	30,000
		次期繰越金	423,971
合計	703,971	合計	703,971

5. 昭和58年度支部役員

- 支部長 沼田 久(小樽商大)
- 運営委員 樋口 透(小樽商大), 浅利英吉(東海大), 加地郁夫(北大), 大内 東(北大), 関口恭毅(北大), 天野豊治(道工大), 関 正治(自短大), 川向史矩(HBA), 長津行高(共和コンクリート), 中山道夫(北電), 斎藤祥生(北電)
- 幹 事 若林信夫(小樽商大), 杉本英二(小樽商大), 新谷英史(北電)
- 監 事 土屋静夫(日電)

事例研究の原稿募集!

ORの特徴は実践にあるといわれています。実際の応用をぬきにした理論ということはORでは考えられません。本誌でも以前から会員の皆様からの事例研究の報告をお願いしてきましたが、まだ十分な成果をあげているとはいえません。

もっと気軽に、「この問題はこう処理したが、もっとよい方法はないか」、「やってみただけでなかなかうまくいかない」というような実例や問題提起をどしどししていただきたいと思います。会員同士の知恵の交換というつもりでこの欄へのご投稿をお願いします。

原稿の長さ：学会原稿用紙36枚(25字×12行)以内(図・表のスペースを含む)

申し込み：学会事務局へ原稿用紙をお申し込みください。

(OR誌編集委員会)